

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
小林和夫			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
森 幸雄		創価大学 文学部 人間学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
サーベイ調査実習	SOKa-170601-2	10人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：
履修者は10名と少数であったが、各自が分担して調査にあたった。調査実習という授業の当初の目的はほぼ達成できた。しかし、分析結果に対する社会学的解釈の平板さは今後の課題である。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

学生生活に関する調査

2. 調査の内容／概要：

創価大の学生生活のあり方を受講生の問題関心にしたいが検討する。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

調査範囲・対象：おもに創価大学文学部社会学メジャー学生（2～4年生）。サンプリングは、集合調査法による。

4. 主な調査項目：

(1)「学生生活のあり方」、(2)「学内の人間関係・ネットワーク」、(3)「グローバル化と学生生活」

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

該当学生の履修する授業で調査票を配布・回収

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

調査時期：2017年6月中旬から下旬 調査地：創価大学教室内 調査員10名

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

有効回収票77（回収率51.3%）

授業時間前に調査票を配布し、授業時間外に記入を依頼した。回収率は必ずしも高くないが、無効票は皆無であり、一定程度データの質は担保されていると考えられる。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

SPSSを使用して、単純集計、クロス集計、相関分析を行い、変数間の関連性の有無を確認した。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

(1)「学生生活のあり方」大学への帰属意識の強弱とGPAのあいだに相関関係がみられた。(2)「学内の人間関係・ネットワーク」創価大学は学内の学生組織の多さが特徴的である。しかし、多数の組織に同時に所属する学生のなかには、理想の友人関係の構築の困難をかかえている者がいることがうかがえた。(3)「グローバル化と学生生活」創価大学は、グローバル化のために教育資源が豊富である。しかし、その一方で、学生の留学経験が必ずしも十分に学内で活用されていないなどの点が明らかになった。

10. 報告書刊行の予定と概要：

公開を前提としていない調査のため、報告書の刊行予定なし。